

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
渡辺 雅子			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
浅川 達人		明治学院大学 社会学部 社会学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	MJGa-120803-0	2人	

## I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

調査対象者は教員のネットワークによってさがしたが、学生たちは聞き取り調査に積極的にかかわった。長時間にわたる聞き取り調査を各々の対象者に対して複数回実施し、質問事項の検討、テープ起こし、補足調査の実施、報告書作成に至るまで、熱心に真摯に取り組んだ。ことに学部生と大学院生を含む混成部隊だったことが、双方にとって好影響をもたらした。

## II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

団塊世代のライフヒストリー：学生運動はどのように人生に影響を与えたか

2. 調査の内容／概要：

大学生時代に学生運動を経験した人々に対して、インテンシブなライフヒストリーの聞き取りを実施した。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

調査対象は、学生運動が盛んだった時代に大学生時代を過ごし、ノンセクトの立場でそれにかかわった人々で、早稲田大学出身者5名（男性3、女性2）、多摩美術大学出身者1名（男性）、日本大学・多摩美術大学出身者1名（男性）である。

4. 主な調査項目：

大学入学以前の家庭環境、高校生活、大学への入学動機、大学生時代に一生懸命やったこと、その当時の時代状況と学生文化、学生運動とのかわり、学生生活、学生同士の関係、影響を与えた本や人物、学生運動からの退出のきっかけやプロセス、学生運動が人生に与えた影響、卒業後の学生時代の友人との関係、生き方のポリシーなど。

## III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

面接による聞き取り調査

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2012年5月～12月。調査場所は大学の研究室および調査対象者の居住地の近辺。調査員数は4名（学部3年生2名、大学院生2名）。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収率及び回収率を必ず記入）：

一人当たり4時間～8時間にわたって聞き取り調査を実施した。対象者数は7名と多くはないが、内面にまで踏み込んだ得難いデータが得られた。

## IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

ライフヒストリーを聞き取り、大学入学以前から現在の人生までにわたる長いスパンでの聞き取りを行い、学生運動の時代の解明とその後の人生への影響を考察した。また、時代背景についても文献資料や映像資料によって学習した。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

特定の党派性をもたないが学生運動にかかわった人々の聞き取りから、体験の重さにより影響はあるが、彼らの人生にとって学生運動の体験は多かれ少なかれ影響を与えていることがわかった。特に顕著だったのはいわゆる勝ち組に与しないマイノリティ感覚をもつことで、社会に対する目、社会活動、職場での活動など、生き方と関連して、学生運動は大きな意味をもっていた。

10. 報告書刊行の予定と概要：

2013年3月、『社会調査実習報告書』29号、296-332頁